

教材の本質をふまえた体育指導のあり方

～ 体づくり運動を通して ～

I 研究の内容

1 研究の具体的内容

- (1) 理論研究や授業づくりの話し合い等を通して、子どもたちが主体的に取り組むことができる学習内容や学習過程を考え、授業案を作成する。
- (2) 授業案をもとに授業実践を行う。その成果と課題について話し合い、今後の授業や研究に活かしていく。

2 授業研究

4年「用具を操作しよう」(体づくり運動)

授業者 向山 敢教諭 日川小学校

5年「南チャレンジカップ」(体づくり運動)

授業者 保坂洋仁教諭 塩山南小学校

(1) 授業実践から学んだこと

- ・ 様々な用具を使用して、多様な動きをつくる運動や体力を高める運動の実践例を示すことができ、運動例を広げることができた。
- ・ 子どもの実態をもとに、発達段階も考慮する中での工夫された学習カードづくりや子どもたちの授業への意欲の高まるような練習方法などを工夫する中で、めあての持ち方や課題に向かったの主体的・探求的な学習を進めることができた。
- ・ 教師の声かけ、子ども同士の声かけや励ましが的確であると、意欲的にも取り組みねらいの達成にも繋がる。
- ・ 教員が児童を指導するための引き出しをできるだけ多く持っておく必要がある。
- ・ 運動の日常化が大きなテーマになっていたが、日頃から運動している子どもは既に日常化されているわけで、運動をしない子、運動嫌いな子の日常化をいかに図るかという視点が大切である。
- ・ 授業では、始めに教材ありきではなく、学級の子どもの実態として、教材に対するレディネスや思考・判断の部分を教師が事前に把握し、そこからどのように単元を組み、どんな活動を取り入れ、どのように評価していくのかという授業づくりの必要性を改めて感じた。

(2) 授業実践から、今後さらに研究を深めたいこと

- ・授業後の研究会でも話題となったが、子どもたちが目指す到達目標や具体的な姿、またそのための指導法や声かけ等について、評価の仕方も含めて検討していけるとよいと思う。
- ・どの程度、どんな種目、内容で「体づくり運動」を扱うことが適切なのか。
- ・子どもたちの発達段階にあい、子どもたちが自然に意欲的に取り組めるような、場づくりや動き、高めたい力など、具体的な中身の洗い出し。
- ・文部科学省のパンフレットで紹介されている「運動」をどのように発展・工夫できるか、またそれ以外にはどんな「運動」が有効か、研究を進めていきたい。
- ・体づくり運動は日常化が図られることが重要だと思う。限られた授業時間の中でどのような手立てで子ども達の意欲付けをしていくのか今後研究を深めたい。
- ・体づくり運動における技術向上のための指導法、またその伝達法。
- ・児童同士の効果的な学び合い、相互評価
- ・体づくり運動における低学年の授業、特に入門期である1年生の授業研究ができればよいと思う。

II 成果と課題

1 成果

- ・学習指導要領の本格実施を前に、授業研究をベースにしながら様々な授業形態や使用する用具等も含めた実践研究ができ、3年次までの蓄積に加えて「体づくり運動」の授業展開例を広げ、示すことができた。
- ・あまり実践例のない体づくり運動にチャレンジしたことで、体づくり運動のバリエーションが広がり、体づくりに対する意識が高まったように思う。
- ・いろいろな授業の形態が見えてきたこと。
- ・これまでの成果を考えながら、新しい取り組みを試そうとしていた。体づくり運動としての授業の可能性を探り、改めて日頃の授業内容を考える刺激となった。体づくり運動でもどの領域でもそうであるが、日々の実践の積み重ねに尽きる。多くの実践があったので、確実に体づくり運動へのとらえがついてきている。

2 課題

- ・各発達段階においての子どもたちの到達目標や具体的な姿、評価の仕方などを明らかにし、そのための指導法について研究していく必要がある。
- ・この領域の研究会でいつも言われる「向上のための細かい指導」。
- ・「日常化」するための手だて・工夫はまだ、研究していく必要がある。
- ・低学年の授業実践ができないという状況が残念に思う。

(部長 小宮山 公仁)